

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 16 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330058

研究課題名(和文) 国際関係理論の日本の特徴に関する再検討 「輸入」と「独創」の観点から

研究課題名(英文) Review on Japanese Characteristic of International Relations Theory

研究代表者

大矢根 聡 (OYANE, Satoshi)

同志社大学・法学部・教授

研究者番号：40213889

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本の国際関係理論は海外の諸理論の輸入に依存し、独自性に乏しいとされる。本研究は、過去の主要な理論に関して、その輸入の態様を洗い直し、そこに「執拗低音」(丸山眞男)のようにみられる独自の問題関心や分析上の傾向を検出した。

日本では、先行する歴史・地域研究を背景に、理論研究に必然的に伴う単純化や体系化よりも、現象の両義性・複合性を捉えようとする傾向が強く、また新たな現象と分析方法の中に、平和的変更の手がかりを摸索する場合が顕著にみられた。海外の理論を刺激として、従来からの理念や運動、政策決定に関する関心が、新たな次元と方法を備えたケースも多い。

研究成果の概要(英文)：In general international relations theory in Japan is considered to be dependent on theories imported from overseas and to lack originality. This study reconsiders the way important theories were imported in the past, identifying originality in areas such as agenda setting and analytical tendencies, recurring like “basso ostinato (Masao Maruyama)”.

In Japan, against the backdrop of previous historical and area studies, there is a deep-seated tendency to assign greater importance to duality of implication and complexity in phenomena than to the simplification and systematization that accompanies theoretical research. In addition, interest in pursuing leads to peaceful change stands out when looking at new phenomena and analytical methods. Furthermore, in Japan numerous examples are apparent of adding new analytical dimensions to concerns related to existing subjects such as international norms and social movements through stimulation by theory from overseas.

研究分野：国際関係論

キーワード：国際関係 理論 国際比較 日本の特徴 リアリズム リベラリズム 国際制度 トランスナショナル

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の国際関係理論は海外の諸理論、特にアメリカの理論の輸入に依存しており、独自性に乏しいと批判されがちである。アメリカの理論の影響は各国にみられるが、その影響の規模や深度は様々であろう。日本における理論輸入の態様を緻密に洗い直し、そこに垣間見られる独自性を再評価する。

(2) 広く日本文化について、丸山真男は海外からの輸入の仕方自体に一貫した特徴が潜んでいるとし、それを「執拗低音」に準えた。日本の国際関係理論には、どのような執拗低音的な特徴がみられるのか。理論輸入の過程にみられる問題関心や観点、方法などを再検討し、特徴と成果、限界を検討する。

### 2. 研究の目的

(1) 日本における国際関係理論研究の一般的動向を研究書や学会誌の掲載論文、学会報告などを対象として、全体的に捉える。

(2) 主要な理論の輸入・応用に照準を絞り、いわば事例研究として、その理論の応用・展開の方法、その際の意図的な修正や意図せざる誤解などを検出し、そこに一貫する特徴がみられるのか、その背景は何かを検討する。その際、海外におけるアメリカ理論の導入・応用状況を視野に入れ、日本に独自の要素があるのかも考察する。

### 3. 研究の方法

(1) 上記(研究の目的1)の一般的動向は、著書・編著や主要な学会誌の掲載論文、報告で援用した理論、鍵となる概念の推移などを確認することで把握した。

(2) 上記(研究の目的2)の事例研究は、カント、カー、モーゲンソー、シェリングの理論、行動科学、国際レジーム論・国際制度論、トランスナショナル・リレーションズを対象として実施した。

(3) 従来の研究上の企図や手法、暗黙の前提などについて、研究上の先人達およびその指導を受けた研究者達から聞き取り調査を実施した。また、主要理論とその輸入状況に関して、主要な研究者に報告を依頼した。聞き取り調査・報告を依頼したのは、山本吉宣(2013年3月:日本の国際関係理論について)、中西寛(2012年9月:リアリズムと高坂正亮について)、山中仁美(2012年9月:カーについて)、宮下豊(2013年3月:モーゲンソーについて)、遠藤誠治(2013年10月:リベラリズムについて)、吉川元(2013年12月:トランスナショナル・リレーションと馬場伸也について)、古城佳子(2014年4月:国際レジーム論・国際制度論について)、岡垣知子(2014年7月:ウォルツのネオ・リアリズムについて)、中村研一(2014年10月:平和研究と坂本義和について)。

### 4. 研究成果

(1) 日本の理論研究や理論を援用した事例

分析には、確かにアメリカの理論動向に数年のタイムラグを置いて呼応する動きが認められる。ただし、海外の理論をそれ自体の社会的文脈や独自の背景を等閑視して直輸入した例はむしろ少なく、輸入先における危機意識や問題関心を踏まえ、それに対する共感や批判を伴いつつ、日本から国際的現象を捉えるための引照基準として援用している。

(2) 日本では、リアリズム・リベラリズムの二項対立軸を図式的に念頭におくのではなく、むしろ理論に必然的に付随する単純化や体系化に対する不信や批判が顕著である。その背景には、日本における歴史・外交史や地域研究の蓄積が作用している。また、例えばモーゲンソーの透徹したリアリズムに対して、カーの道徳論や国際主義的関心を評価するなど、理論的明晰性よりも現象にそくした複合性、両義性に対する根強い関心が認められる。

(3) 新たな理論を導入する際、リアリズムに対する批判が前提となり、平和的変更の可能性を探る観点から行動科学、相互依存論と国際レジーム論、トランスナショナル・リレーションズの輸入が進められた面が強い。このために後者の諸理論は、輸入先以上にリベラルな性格を帯び、また国際関係の新動向を分析対象とし、リアリズムが想定していた国際関係の変化を照射する観点から用いられた。

(4) トランスナショナル・リレーションズの理論が、日本における社会学や運動論の関心に新たな鋳型を提供し、また坂本義和や高坂正亮等が、日本の外交問題を題材としながらも、海外のリアリストが課題とした根本的問題に独自の方法で解答を試みるなど

「安全保障ジレンマ」を回避するような安全保障措置の模索、「囚人のジレンマ」を回避するようなイニシアティブ、各国間の国益の慎慮に関する歴史的知見など、海外の理論を自らの学術的スタンスを定位する手がかかりとした例が多数みられる。

(5) 近年、「非西欧」理論の再評価が進み、各国の問題状況に対応した国際関係理論・モデルを模索する動きが散見される。日本における理論的な試みは、一定の独自性を備えていたとしても、同時に東アジアなりミドルステイとなり共通する理論的課題に対する解答を伴っていると考えられる。その意味において、有益な知見と検討の素材を提供するものと考えられる。

(6) 研究成果は、以下のようなシンポジウム「国際関係理論の日本的特徴の再発見 理論の『輸入』と『独創』をめぐって」において研究分担者全員が報告し、議論を行った(2014年12月6日、東京大学・駒場キャンパス)。

・森靖夫「カントの永久平和論の日本における輸入・受容 神川彦松を中心に」

・西村邦行「E・H・カーの受容 輸入と独創から見たその通史」

・大矢根聡「日本における『モーゲンソーとの対話』 モーゲンソーを介してみた坂本・高坂論争を中心に」  
・石田淳「トマス・シェリングを読む坂本義和」

・多湖淳「行動科学、計量・数理国際政治学の日本における輸入と受容、そして輸出へ」  
・宮脇昇「トランスナショナル・理論の日本における輸入と受容」  
・山田高敬「コンストラクティヴィズムとしてのレジーム論の行方 輸入後の展開」  
・討論者：遠藤誠治、古城佳子

(7) 一部の研究分担者は、後述のように日本国際政治学会の学会誌『国際政治』などに研究成果を公表した(下記を参照)。

(8) 研究分担者は、研究成果に基づく編著を執筆中であり、2016年に刊行を予定している(大矢根聡・石田淳編『日本の国際関係理論(仮題)』〔刊行予定〕)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

西村邦行「世界にとどまる E・H・カー『歴史とは何か』の政治思想」『北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編』65巻2号、2015年、13～28頁、査読なし。

西村邦行「レナード・ウルフにおける自我と社会 戦間期理想主義の政治心理学」『北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編』65巻1号、59～74頁、査読なし。

石田淳「動く標的 慎慮するリアリズムの歴史的文脈」『国際政治』175号、2014年、56～69頁、査読有。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokusai-seiji>

西村邦行「日本の国際政治学形成における理論の<輸入> E・H・カーの初期の受容から」『国際政治』175号、2014年、41～55頁、査読有。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokusai-seiji>

大矢根聡「国際規範と多国間交渉」『グローバル・ガバナンス』1号、2014年、14～30頁、査読有。

Atsushi Tago and Srdjan Vucetic, “The only choice: Canadian and Japanese f-35 decisions compared,” *International Journal*, 68, 2013, pp.131-149, 査読有。

大矢根聡「交差規範の法化・順守連鎖の逆説」『国際法外交雑誌』122巻3号、2013年、査読有。

〔学会発表〕(計3件)

森靖夫, “Preparation for Total War in Japan Post WW1,” IHR Seminar at Senate

House, London, 2015, 3.

宮脇昇「グローバル・ガバナンスにおける<as if game>」グローバル・ガバナンス学会・研究大会、2013年4月6日、立命館大学

森靖夫「国家総力戦としての日中戦争」国共関係興駐日戦争・国際学術研討論会、2013年11月1日、中央研究院近代史研究所、台湾・台北市

〔図書〕(計5件)

森靖夫「アメリカ・デモクラシー・国家総力戦 松井春生の資源保育論」中西寛・小林道彦編『安定の失われる時 国内体制と国際秩序の危機』京都大学出版会、2015年、刊行予定、査読なし。

西村邦行「現実主義」押村高編『政治概念の歴史的展開(第7巻)』晃洋書房、2015年、249頁、査読なし。

大矢根聡「モーゲンソー『国際政治』」広島市立大学広島平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』法律文化社、刊行予定、査読なし。

石田淳「安全保障の政治的基盤」遠藤誠治・遠藤乾『シリーズ日本の安全保障・第1巻 安全保障とは何か』岩波書店、2014年、査読なし。

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年、476頁、査読なし。

大矢根聡『コンストラクティヴィズムの国際関係理論』有斐閣、2013年、304頁、査読なし。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

大矢根聡 (OYANE, Satoshi)  
同志社大学・法学部・教授  
研究者番号：40213889

(2)研究分担者

山田高敬 (YAMADA, Takahiro)  
首都大学東京・社会科学部・教授  
研究者番号：00247602

(3)研究分担者

石田淳 (ISHIDA, Atsushi)  
東京大学・総合文化研究科・教授  
研究者番号：90285081

(4)研究分担者

宮脇昇 (MIYAWAKI, Noboru)  
立命館大学・政策科学部・教授  
研究者番号：50289336

(5)研究分担者

多湖淳 (TAGO, Atsushi)  
神戸大学・法学研究科・准教授  
研究者番号：80457035

(6)研究分担者

森靖夫 (MORI, Yasuo)  
同志社大学・法学部・助教  
研究者番号：50512258

(7)研究分担者

西村邦行 (NISHIMURA, Kuniyuki)  
北海道教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：70612274